

上川管内農業法人ネットワーク通信 「あぐり Corp.」



2016
夏号

発行責任者: 上川管内農業法人ネットワーク会長 中原 浩一
発行元: 上川農業改良普及センター

通巻17号(2016年7月)

上川管内農業法人ネットワーク 「夏期研修会」が開催されました



6月29日にネットワークの夏期研修会がアトホテルズ旭川で開催されました。研修会にはネットワーク会員のほか、上川管内の農業法人の役員や関係機関職員などの参加があり、出席者数は60人になりました。

研修会では、十勝地域で農産物の集荷販売を手がける(株)山本忠信商店の山本英明社長から「TPPにおける山の経営戦略について」と題して講演されました。数々の農商工連携プロジェクトに携



わってきた山本氏はアジア圏を今後有力な輸出のマーケットとして着目、「農産物の加工により海外産品との価格差を縮減して、このTPP情勢で海外への販路拡大に挑戦したい」と話されました。

農林水産省経営局保険課の前田課長の講演「収入保険制度について」では、平成29年の法制化に向けて実態調査が現在進められている「収入保険制度」の概要について説明されました。説明後には出席者との意見交換の時間が設けられ、活発な質疑が交わされていました。

また、同省経営局協同組織課の岩崎課長補佐からは今年施行となった改正農協法の概要について情報提供がありました。



研修会の講師、左から山本社長、前田課長、岩崎課長補佐

会員紹介 旭川市「農事組合法人 日の出生産組合」

日の出生産組合は、昭和40年に農業機械施設の共同利用により稲作経営の合理化と省力化を図るべく、東旭川の近隣3集落による任意組織として設立されました。共同防除やトラクター、コンバインなどの機械導入から始まった活動はその後、機械・施設を充実して共同経営を開始し、また冷害や異常気象、カメムシやウンカの発生と、幾多の障害を経験してきました。

水稻生産では昭和52年にライスセンター施設を建設し、収穫から製品出荷まで一貫体系による適期収穫が可能になりました。平成2年には初の全量1等米出荷を記録するなど、高品質で食味のいい米の生産に邁進してきました。転作物に関しましては、小麦の受託栽培への取組に始まり、大豆の機械化一貫体系の導入など、小麦・大豆・小豆等による輪作に取り組みました。

平成18年に水田・畑作経営所得安定対策の導入を契機に集落営農組織の認可を受け、平成23年に法人化、更なる発展を目標に経営を進めています。



代表理事組合長 廣田 実 氏
 法人設立 平成23年4月 資本金 402万円
 事業内容 米・小麦・大豆・そばの生産販売・作業受託

今年で設立50周年を迎えた日の出生産組合は、後継者へと代々受け継がれた技や思いを継承し、作業に取り組んでいます。

当初の任意組織から現在の法人に至るまで一貫して「日の出生産組合」の名称を変えなかったのは、長く苦楽をともにして愛着のある名前を今後も残していきたいとの強い思いによるもの。地域農業者の高齢化が進むなかで東旭川地区の農地を維持すべく、これからも組合員・役員一丸となって取り組んでまいります。

行事のご案内

全国農業法人秋季セミナー 2016 in 北海道 テーマ「グローバル化をチャンスに つなぐりの力で掴む夢」

日本農業法人協会及び北海道農業法人協会・東北各県農業法人協会主催によるセミナーが開催されます。

全国の農業法人経営者が一堂に会し、農業法人同士の相互交流、経営者能力の向上に向けた研修を通じて、農業法人の経営発展と地域農業の活性化に資するセミナーとなります。



日時 平成28年8月22日14時30分～24日17時
 場所 一日目・札幌パークホテル
 (札幌市中央区南10条西3丁目)
 二・三日目・視察 (一日目のみ参加も可)

講師 ロイヤルホールディングス(株)
 経営代表取締役兼CEO 菊地 唯夫 氏

問合せ先 北海道農業法人協会事務局まで
 (電話011-233-0145)

編集後記

長雨ぞみだった6月を過ぎ、短くも貴重な北海道の夏を迎えました。農免道でも土地に不慣れな観光客の車を見掛けることが多い時期、くれぐれも交通事故にはご注意ください。(K・T)

